

社会福祉法人 仙台市社会事業協会

“平成28年 仕事始め式”

《新年のご挨拶》

P 2. 会長理事、副会長理事のご挨拶

～高齢者福祉事業～

P 3. 養護老人ホーム 仙台長生園
特定施設 仙台長生園
長生園介護センター

P 3 葉山デイサービスセンター

P 3～9. 仙台楽生園ユニットケア施設群
《特別養護老人ホーム仙台楽生園、葉山地域交流プラザ、グループホーム楽庵、葉山地域包括支援センター、ケアハウス創快館、仙台楽生園短期入所事業所、楽園デイサービスセンターいこい・なごみ、葉山訪問看護センター、葉山ケアプランセンター、葉山ヘルパーセンター》

P 9. 沖野老人福祉センター、沖野デイサービスセンター、沖野居宅介護支援センター

～児童福祉事業～

P 9～10. 仙台保育園

P 10. 柏木保育園

P 10～11. 富沢わかば保育園

P 11. 仙台市中山保育所

P 11～12. 母子生活支援施設 仙台つばさ荘

P 12～13. 母子生活支援施設 仙台むつみ荘

～教育事業～

P 13 仙台理容美容専門学校

《平成28年 仙台市社会事業協会 新年のご挨拶》

会長理事 千田 典男

皆さん、明けましておめでとうございます。各事業所、各家庭で良いお正月を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年11月末に安倍首相が一億総活躍社会等の新しい3つの矢、①希望を生み出す強い経済として、GDPを600兆円まで上げること②安心につながる社会保障として、介護離職ゼロにすること③夢を紡ぐ子育て支援として、出生率1.8人にすること、この3つの目標を打ち出しました。

当法人は、老人部門、児童部門、教育部門があり、国の政策が当法人の経営に大きく影響します。介護保険制度の財政の問題が解決しなければ、介護職員の離職防止には繋がりませんし、出生率が上がらなければ保育園での定員割れや学校の学生の減少を招いてしまう。この問題の共通点は、賃金の安い非正規職員の雇用形態の改善が急務であると思っています。

アベノミクスで景気が多少上昇傾向にあるが、解決までには時間が掛かりそうです。当法人も2つの問題が直結しており大変厳しいですが、世界を見渡せば日本はまだ良いともいえます。全職員一丸となって助け合いながら、この苦難を乗り越えていきたいと思っておりますので、職員の皆様、本年も宜しくお願いいたします。

副会長理事 佐々木 薫

新年、明けましておめでとうございます。

昨年は、介護保険制度の改正と新たな加算の実施などがあり、職員はその対応に追われ大変苦慮したのではないかと思います。また、介護報酬が引き下げられたことにより、老人施設は軒並み経営が厳しい状況になってしまいました。

児童施設は、少子化対策の恩恵を受けて経営は順調に推移しており、また、仙台保育園の改築も予定通りに進んでいる状況です。理美容学校においては、もうすぐサロン実習室が完成の見込みですし、柏木校舎跡地は駐車場として整備を行い、12月より稼働しています。

法人全体では、安定的で継続的な法人運営を実施するために、コンサルタントを入れて給与や手当等を含めた諸規程の見直し、キャリアパス制度などの導入を進めています。さらに、施設の老朽化に伴う修繕・建て替え計画や事業の拡大・縮小・廃止・新規計画などの中・長期計画は策定に着手したばかりですが、こちらも本腰を入れて取り組まなければなりません。

介護士や保育士などの職員確保も、昨年は、各施設任せにはせず法人全体で取り組みました。老人部門会議や児童部門会議を新設して話し合い、必要に応じて採用ワーキングチームを編成し、新卒採用や嘱託職員の正職員登用を実施しました。今後は、さらに採用システムを吟味し計画的に人材確保を進めていく予定です。

今回の通常国会では、社会福祉法の改正案が成立する見通しです。改正案の柱は、経営組織のガバナンス強化、事業運営の透明性向上、地域で公益事業を行う責務の3つです。公益性の高い社会福祉法人ですので、これらには積極的に取り組む必要があります。

そのためには、やはり、人材の育成が重要となってきます。昨年は、初任者研修やリーダー研修、各委員会研修もある程度行われましたが、今後は、さらに法人理念や人材像に基づいた研修内容の充実を図り、もっと計画的に実施していくことが必要です。

アベノミクスの「一億総活躍社会」や「新3本の矢」には、多少なりとも期待していますが、それ以前に、法人役職員が知恵を出し合い、一丸となって法人改革に取り組んでいただきますようお願い申し上げます、新年の挨拶とさせていただきます。

養護老人ホーム仙台長生園
特定施設仙台長生園
長生園介護センター

園長 菅田 賢治

新年あけましておめでとうございます。旧年中は、ひとかたならぬご高配を賜り、心より感謝いたしております。

お陰様で、前年猛威をふるった感染症も、今のところ落ち着いており、穏やかなお正月を迎えることが出来ました。これは職員の努力もさることながら、利用者・ご家族・関係機関の皆様のご協力とご理解の賜物と存じます。ありがとうございました。

さて、平成 27 年度は介護保険の制度改正年であり、養護老人ホームを取り巻く制度としても、外部サービス利用型特定施設の認可だけでなく、一般と同じ特定施設の認可を取得できるようになる等、介護保険上、手厚く対応できる方向に変わろうとしています。

仙台長生園も、施設の現状と制度の方向性を見極め、より利用者の方々の生活に適したサービス形態に進化していく必要性を実感しているところです。

養護老人ホームが求められる役割を果たし、地域の重要な社会資源として生き残ってゆくには、当園がこれまで培ってきた介護力を備えたまま、これを強化し対応していくこと。そしてそれと並行し、最後のセーフティネットとして、介護保険では対応しきれないソーシャルワークニーズの高い困難な課題を抱えた方を積極的に受け入れてゆく等、その存在価値を認めて頂けるようこれまで以上の努力が必要です。

施設職員全体のレベルアップをめざし、研修、勉強を重ね、実績をあげることで新規利用者の獲得につなげる努力を続けてゆきたいと考えております。

地域の皆様方とのつながりを大切に、職員一同励んで参りたいと思います。本年も引き続き仙台長生園をよろしくお願い申し上げます。

葉山デイサービスセンター

所長 小野寺 信也

葉山デイサービスセンターも開所して 28 年が過ぎ、昨年度、センター開所時より使用している事務室を改造して静養室に変更した他、14 年使用した、ボイラーの交換（灯油からプロパンガス）を行い、利用者の皆様に快適に過ごして頂いております。

介護報酬の改正、近隣の競合施設の影響を受けておりますが、利用者の皆さん、ご家族の皆様から「葉山デイに行くのが楽しみ」と感謝のお言葉を頂いております。また、昨年度から、行っている「脳トレタブレット」も、利用者の皆さんに定着しており興味をもって取り組んでいる姿が見受けられます。

本年も家族的な雰囲気、利用者の皆さんとご家族が安心して利用して頂けるよう、きめこまやかなサービスを提供して行きたいと考えております。

《平成 28 年 仙台楽生園ユニットケア施設群 新年の抱負》

総括施設長 佐々木 薫

新年、明けましておめでとうございます。

仙台楽生園ユニットケア施設群は、昨年 12 月で 10 周年を迎えました。この間ご指導、ご協力をいただきました全ての関係者の皆様に心より感謝を申し上げますと共に、これからも未永くご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

当施設群は、地域密着大規模多機能の理念を实践すべく、介護保険10事業と地域交流プラザを運営し、経営的には多少の凸凹はあるものの相互に補完し合いしながら、安定的な経営を維持しています。しかし、これらの事業を推進していくには、安定的な職員の確保が必要となります。昨年も職員不足に悩まされましたが、何とか派遣社員を正規雇用に変換するなどして急場をしのいでまいりました。これは、全国的な課題ではありますが、当法人においても、他法人の事業所との差別化を図り、職員の確保を最優先に考えていかなければなりません。

昨年は、嘱託職員の正職員への登用を増やしたり、当施設群での見学会も含め新卒採用や正職員登用の試験を、施設採用ではなく法人採用で実施したりしてきましたが、今年も、法人事務局や法人内事業所と連携を深め対応していく予定です。

昨年4月には、介護報酬の改定があり、介護保険10事業を運営する当施設群としても気を抜けない状況が続いています。今年も、厳しい中でも仙台楽生園ユニットケア施設群の理念でもある総合福祉サービスの提供を実現すべく、全事業所が連携して経営効率を高め、人材育成を推進しながら、サービスの質の向上を図ってまいります。

遅れていた社会福祉法の改革案も1月の通常国会で通過する見通しですが、そのなかの一つに、地域貢献事業の推進が挙げられております。当施設群では、開設当初から地域交流プラザを設置し、施設開放事業や地域交流・地域支援・地域育成事業等を幅広く行うなど、制度改革を先取りした形で実施してまいりました。また、東日本大震災からもうすぐ5年経ちますが、今後もできる範囲で災害支援を継続していくなど、法人事業として社会から評価されるように、より一層、地域貢献や社会貢献に力を注いでまいりたいと考えています。

《 各事業所 新年の抱負 》

特別養護老人ホーム仙台楽生園

園長 佐々木 薫

当園は、昭和62年4月開設の従来型(多床室)施設と、平成17年12月に開設した6階建ての高齢者総合福祉施設の中核をなす、ユニット型(個室)施設の特別養護老人ホーム(指定介護老人福祉施設)ですが、おかげ様で10周年を迎えることが出来ました。

ここ数年来、介護職員の人材不足が騒がれ、「介護人材枯渇時代」と言われる状況にあり、国としても“人の確保”の議論を進める中、アベノミクス・新3本の矢の「第3の矢：安心につながる社会保障」のうち、「介護離職ゼロ」を合言葉に「安心できる社会を目指す」案が出されました。これは、施設を50万人分整備するとの内容ですが、「施設あって介護職員なし」状況に拍車がかかる可能性がありますので、まず、最初に行わなければならないことは人材確保対策です。また、昨年は介護報酬が引き下げられるという現実から、経営状態が厳しい状況になるばかりではなく、職員の離職を誘発することも心配されております。

当施設においても、介護人材の確保においては苦勞している状況にありますが、さらに、介護保険制度の改正により、原則、新規入所者は要介護3以上の高齢者に限定され、中重度の要介護者を支える施設としての機能が増大し苦慮しています。現状としては、重度化と介護人材の不足から生じる現場職員への負担増や、介護人材の育成が重要な課題となっています。

また、「地域包括ケアシステム」の構築を目指して、地域に貢献していく拠点施設の役割も求められることから、さらに地域支援事業について重点的に推進してまいります。

今後は、仙台楽生園の「理念」を念頭に置き、職員一人一人がサービスの質の向上を図り利用者、ご家族の満足度を高めていくこと、また、医療との連携や他職種協働に重点を置きサービスを提供することが重要となります。最後に、安心・安全な“生活の場”として、選ばれる施設づくりを目指し、健全な施設運営を行ってまいります。

葉山地域交流プラザ

館長 佐々木 薫

地域交流事業の年間延利用者数、約 19,200 人の内、喫茶レストラン「茶楽」は約 6,500 人、展望風呂「天空館」は約 6,320 人、理美容室「g g バーバー・美楽る」は約 1,640 人、葉山予防リハビリセンターは約 460 人、葉山の森おもちゃ図書館は約 900 人、ボランティア活動センターは約 1,800 人、実習生の受け入れが約 940 人、その他の地域支援・地域交流事業が約 620 人となっています。

昨年より全体の利用者数が 2,000 人ほど減少していますが、これは施設利用者の重度化に伴うものと、喫茶レストラン茶楽の値上げによる利用人数の減少が影響しています。また、各サービスをご利用いただいているお客様の定着は確実に図られている反面、開設から 10 年が経過し固定客の高齢化も否めない現状で、今後は新規利用客の獲得が課題となってきます。

当プラザで、新たな施策や地域ニーズに応えるため、葉山地域包括支援センターと共催して実施している「葉山オレンジ(認知症)カフェ」も、月一回の開催でスタッフを除き毎回 6~10 名程度の参加をいただいております、定着化・グループ化が図られてきています。認知症の人や家族、関係者等が集い、和やかにお茶できる、愚痴をこぼし合える、認知症の勉強ができる、さらには相談もできるカフェになっています。今後は、協力店舗やボランティア、認知症サポーター等の参加を積極的に働きかけ、内容を充実させていきたいと考えています。

ユニットケア施設群の開設 10 年周年を節目として、今後にご利用者に安心して継続してご利用いただくために、環境面のメンテナンスを心がけ、新規利用者の獲得を目指して、新たなサービスを企画するなど、さらなる内容の充実に努めてまいります。

グループホーム楽庵

施設長 佐々木 薫

H17 年 12 月から事業を開始いたしました当ホームも、各関係機関、各医療機関、地域の皆様、入居者およびそのご家族、そして何よりも士気の高いスタッフなど、多くの方々からのご理解、ご協力を得ながら、無事 11 年目の年を迎えることが出来ました。

地域密着型のサービス事業者として長年、地域に向けた発信を地道に進めた結果、絶えることのない入居の希望をいただきながら、切望する家族の思いに応えることができず、心を痛める場面も多々ありました。

年々、ホーム内での高齢化と重度化が進んでいることを日々強く実感しておりますが、引き続き最期まで居たい場所には選ばれるように、信頼と希望を果たす場所として質の高いケアが提供できる「支えるひとつづくり」を目標に、徹底した人材育成を行ってまいります。

2025 年の地域包括ケア時代の到来に向けて、専門性を持った事業所として先進的ケアの実践を行い、さらに信頼を得られるように地域発信活動の幅を広げながら、「ひとの想いをつなぐ場所」として各方面へ懸命に尽力してまいります。

ホームを支える職員一人ひとりが、グループホーム楽庵の職員としての誇りを持ち、先導者として「認知症への理解」を推進する活動にも、積極的に貢献できるようにしてまいります。

葉山地域包括支援センター

所長 佐々木 薫

高齢化が急速に進展する中、団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年に向けて、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるため、医療・介護・介護予防・住まい及び日常生活の

支援が包括的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築が求められています。

地域包括ケアシステムの構築を推進していくにあたり、まずは個別ケア会議を開催し、地域課題の把握やネットワークの構築を目指していきます。さらに、地域包括支援センターは、地域包括ケアシステムの中核として重大な役割を担っていますので、一人一人のケアマネジメント力の強化や、センターとしての事業所機能の強化も図っていきます。

具体的には、①高齢者になっても心身ともに健康で生きがいを感じながら積極的に社会参加できるよう、介護予防・健康づくりの取り組みを推進していきます。②高齢者の尊厳保持のため、虐待の未然防止、早期発見・早期対応への取り組みを進めながら、成年後見制度の活用を進めていきます。③一人暮らしや高齢者世帯が増加している中、認知症高齢者が増えているので、住み慣れた地域でその人らしい生活ができるよう認知症に対する理解を深めていただき、地域で認知症高齢者を支える体制を作っていきます。④個別ケア会議等を開催することにより、地域の関係機関との連携を強化していきます。

ケアハウス創快館

施設長 小船 正明

ケアハウス創快館は、平成17年12月1日に創立10周年を無事に迎えることが出来ました。関係各位の皆様にご挨拶申し上げます。

さて、この27年度を振り返りますと、創快館の入居者様は定員10名で、内全員が女性ということもあり、とても賑やかな1年を家庭的な雰囲気の中で生活してこられたと思います。特に「和（輪）の構築」として毎日実施している“介護予防体操”と大きな声を出して歌う“口腔機能維持メニュー”は、入居者の方々の健康づくりに役立つだけでなく、楽しみながら交流を深める機会にもなっています。

運営状況においては、入居定員が10名ということからも経営的に厳しい状況でしたが、今後も同様の課題が予測されます。また介護保険制度の改正に伴い、これからの施設機能の役割を果たすなかで、社会貢献活動やソーシャルワーク機能の充実等、地域の高齢者などの在宅生活を支援する中心的な役割を担うことが期待されている現状も含め、基本理念である「創一自ら創造する」・「快一共に心地よい」・「館一住まいと生活」を職員が一丸となって提供出来るよう頑張っていきたいと思っております。

葉山訪問看護センター

所長 小船 正明

街に安心の笑顔を咲かせたい！ ～「こころ」「きずな」「くらし」～を“理念”に掲げ、平成17年12月1日に開所してから、おかげ様で10周年を迎えることが出来ました。

この10年を振り返りますと、訪問看護の基本である、病気や障害を持った人が住み慣れた地域やご家庭で、その人らしく生活を送れるように、医師や関係機関との連携をしっかりと図りながら、サービスを実践して参りました。今では、地域の居宅介護支援事業所をはじめとする関係事業所・医療機関との“信頼関係”も着実に積み重ねる事が出来ております。

今後、更に増加が見込まれる高齢者の地域における暮らしを支えるため、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保された「地域包括ケアシステム」の実現に向けていく中で、「医療と介護の連携」や「認知症高齢者等の日常的生活支援」の重要性も掲げられております。医学的な観点、身体のアセスメント、そして生活者としてその人が持っている能力を組み合わせ、暮らしを支えていくことが、超高齢社会に求められる看護師の大きな役割となります。まずは、人員体制の充実を図り、求められている地域医療への責務を果たしていけるよう進めて参ります。

仙台楽生園短期入所生活介護事業所

所長 植木 祐子

昨年は、介護保険制度改正と介護報酬単価改定等の影響から、多くのショートステイ事業所が厳しい経営を強いられる状況にある中、ユニット館、本館ともに9割を超える高い水準の稼働を維持することができました。窓口となっている生活相談員が、より積極的に法人内外の居宅介護支援事業所との関係構築に努め信頼を勝ち得てきた成果ともいえますが、このことは現場で日々きめ細やかなケアにあたる、介護士や看護師等のスタッフ一人一人の努力があってこそのものであります。

他の事業所の例にもれず介護人材不足の昨今、限られた人員体制で、ケアの質を落とすことなく、より多くの利用者の皆さまのニーズにお応えしていく難しさはありますが、スタッフ一人一人が持てる力を十分に発揮し、他職種と協働しながら同じ目標を持って進むことで克服できると期待しています。特にユニットケア施設群としてのメリットを活かし、ユニット・事業所の垣根を越え情報共有を図ること、共同で開催する研修会への参加等、様々な機会を活用してお互いに点検し学び合う場を共有することで、可能にできると確信します。

今後地域包括ケアシステムの中で、重度化と医療的管理の必要性がある方々への対応は必須であり、地域からの緊急対応や機能訓練等のニーズにも応えていく必要があると考えます。昨年はショートステイからの発信で、在宅での家族介護へのサポートにも取り組み、ご家族からの評価もいただいています。このような実践を積み重ねていく上では、職員一人一人の介護実践力の向上を目指すとともに、生活相談員、介護士、看護師、機能訓練指導員等関連職種が十分に連携することと、併せてユニットケア施設群としても在宅関連事業所間共通の利用者について情報共有し、密接に連携を図りながら思いを同じくして進むよりことが重要です。

ショートステイは地域包括ケアにおける在宅サービスの重要な役割を担っていることを自覚し、より多くの利用者・ご家族の皆さま、あるいは関係機関からも信頼し選ばれる事業所を目指し、地域の医療・保健・福祉・その他関係機関との連携も図りながら、この1年より発展的に事業を展開したいと思っております。

楽園デイサービスセンターいこい・なごみ

施設長 植木 祐子

昨年は4月の介護保険制度改正とこれに伴う報酬単価改定等の煽りを受け、周辺地域の競争する他事業所が閉鎖に追い込まれる等、通所介護事業所としては大変厳しい運営を強いられましたが、その中であって①閉鎖事業所等から新規利用者の受入れ、②休止していた日曜日稼働の一部再開、③年末休業日の縮小、④高水準の稼働率を確保する等、限られた人員体制下でスタッフ一丸となって取り組み、一定の成果を上げることができました。

認知症ケアの専門性向上を目指し事業所内研修を継続的に行ったほか、認知症実践者研修等の外部研修にも積極的に参加し、参加者による伝達研修も定期開催してスタッフ間での共有を図ってきました。「くもん学習療法」導入から丸1年が経過し、その効果を検証する段階にも来ております。今後は、他の学習療法導入施設との勉強会や交流会等にも積極的に参加し、情報共有を図りながら、学習参加者の増員とスタッフの認知症ケア実践力向上にもつなげたいと考えています。

また、デイ・グループホーム・ショートステイ共催の家族交流会を開催しましたが、認知症への理解を深めていただく場・気軽に相談できる語り場として、回を重ねる毎にご家族の皆さまにも定着し、広く認知していただけるようになってきたと感じます。

今後地域包括ケアシステムの中で、認知症対応型デイサービスとして地域で選ばれる施設を

目指し差別化を図るためには、スタッフ一人一人が認知症ケアの専門性をより高めていくことと、併せてユニットケア施設群内の在宅関連事業所が共通の利用者について情報共有しより密接に連携を図る中で、ユニットケア施設群としての地域包括ケアの一翼を担うことが重要であると考えます。スタッフ全員が同じ目標に向かい、ともに力を合わせて取り組めるよう、利用者の皆さま・スタッフの心に寄添いながら、この1年を過ごしたいと思います。

葉山ケアプランセンター

所長 榊原 泰子

葉山ケアプランセンターでは、地域で暮らす利用者様・家族様との信頼関係を大切にしながら、これまでの暮らしの継続と、安心感のある在宅生活を送っていただけるよう支援することを理念に掲げ、事業運営してまいりました。

居宅介護支援事業所の運営に関する評価は、非常に厳しいものがあります。ケアプラン作成の一連の流れ・人員体制要件等、介護保険制度上の運営基準が守られているか、適正かどうか、常に問われております。葉山ケアプランセンターは、事業内容についても順当であり、加算要件を満たす特定事業所として評価いただいております。

制度上の評価も重要ですが、やはり私たちが実際に関わらせて頂く利用者様の声が、真の評価といえます。冒頭に記しました信頼関係構築のためにも、利用者・家族様の声に耳を傾けることを目的に、継続的に満足度調査のアンケートを実施しております。今年度は、電話対応等の接遇面の評価や、ケアマネジャー業務(月1回以上の訪問や担当者会議開催等)に関する事前説明が、十分であったかどうか等の内容に、お答えいただきました。

皆様からのご返答を起点として、日々の相談援助業務振り返る、いい機会となりました。いつも地域の皆様に気軽に相談いただけるよう、又皆様の身近にあると思って頂けるよう、在宅介護の相談支援専門機関として、その役割を果たしていきたいとおもいます。

まずは、介護支援専門員ひとり一人が、利用者様の生きることを支援する仕事だと肝に銘じ、“理念”である『信頼と安心』のもと、事業所全体の質の向上を目指してまいります。

葉山ヘルパーセンター

所長 榊原 泰子

葉山ヘルパーセンターは、今年度は人員体制の改革を実施、新しい風をまといました。ひとつひとつ確実に積み上げながら、不安や迷いも伝え合い、全員で方向性を共有、そして前進あるのみ。そんな想いを持った22名のヘルパーが、サービス提供しています。

思い返せば10年前・・・開所した当初の職員数はたった3名でした。当初ヘルパーを利用して下さった利用者様が、次第にユニットケア施設群のデイやショートを追加で利用頂くようになり、今や当然のこととなりましたが、“大規模多機能型地域密着サービス”が展開されるのを、まさに実感してまいりました。訪問・通い・泊まりが、施設群各事業所において一体的に行われることで、地域の皆様に、安心を提供できたのではないかと考えます。いつも身近にいて、何でも気軽に相談できるヘルパーが、デイやショートという社会的な場への“つなぎ役”を担い、その結果、利用者様・ご家族様の笑顔を間近に見ることができました。わたしたちヘルパーも「ここで働けて良かった」と思えた瞬間でした。

これからの10年を、ヘルパーセンターとしてどのように歩いていくのか・・・時代の流れに則し、転換期に差し掛かっています。今後は、どのようなサービスが求められてくるのか情報を集約し、介護保険事業と障害福祉事業で得た在宅サービスの経験知を活かし、今までにない、あらたな事業展開も視野に入れていきたいと思っております。当然、健全な経営軸を回し続けていくことが前提となります。

幸いなことに、わたしたちヘルパーは、地域の皆様の声を、直接伺うことができます。そんな声に応えながら、これまでも、いまも、これからも、皆様とともにあるヘルパーを目指し続けます。

沖野老人福祉センター 沖野デイサービスセンター 沖野居宅介護支援センター

施設長 高橋 すい子

新年明けましておめでとうございます。

沖野老人福祉センターは、今年の4月で創立25年という節目の年を迎えます。市内にお住まいの方や近隣の多くの皆様に支えられた賜物と感謝申し上げます。今年もたくさんの方々にご利用戴ける様、職員一同頑張ってお参ります。現在、趣味の教室は13教室あり、受講者の皆様の生活の生きがい作りや交流の場としても賑わいをみせております。各団体サークルの申込みも多く、館全体が活気付いております。又、毎月の行事として心身スッキリ体操や脳いきいきクラブも好評を博しており、認知症予防や介護予防に貢献しております。そして、今話題になっている認知症や介護保険制度について、正しく理解して戴くための講話や講座を開催し、多数の皆様にご参加いただきました。今年も定例行事の他、利用者様の要望などを反映できる様、職員力を合わせ尽力して参る所存です。

沖野デイサービスセンターは、今年度4月から3台の車両のうち、一台を職員による利用者送迎を開始しました。平成27年4月の介護報酬の改定により収支の悪化を多少なりとも防止させたいとの目的でした。そして加算はなるべくとるようにしましたが、10月までの利用者の推移をみますと、平均16.1人となっております。昨年の同時期と比較しますと、1.4人上回っておりますが、定員から見ると大変厳しい状況となっております。

介護支援の方は、利用者の皆様には快適で楽しく過ごして戴き、ご家族様には少しでも介護の軽減化を図るお手伝いをして参りますので、安心してご利用戴きたいと思っております。

職員一同きめ細やかな介護に全力を尽くします。今年もどうぞ宜しくお願いいたします。

沖野居宅介護支援センターは、ケアマネ2名で業務を展開しております。昨年の5月着任1名、今年5月着任1名の男女2名でケアプランを作成対応しております。給付管理件数は、平成27年11月現在約47件の給付管理で推移しております。地域包括支援センターからの受託業務は、昨年11月現在で、11名受け入れております。又老人福祉センターご利用の方や、お近くにお住いの方々からの相談にも対応しており、日々尽力しております。地域の皆様に広く知って戴き、必要なときには、是非ご相談いただければと思います。

以上三施設、今年も複合施設の利点を生かし、お互い補完共助できるところは連携と協力しながら、利用者様に、快適で使いやすいサービス提供を目指し、一丸となり頑張っていきますので宜しくお願い致します。

仙台保育園

園長 高野 誠

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお参りいたします。

仙台保育園は、旧仙台市営住宅跡地への移転新築工事が2月末には完了し、いよいよ平成28年4月より定員を60名から110名へと増員しスタートする大きな節目の年となります。

職員数も30名を超える大所帯となり、あらたに仙台市より委託を受けての病後児保育も始まります。

新園舎という新たな環境のもとでの保育は、新入園児も増える事もあり、園児だけでなく保護者対応にも追われる事が予想されます。そして、職員も増える事から連携もさらに密にとら

なければならぬでしょう。主任、副主任はもちろん中堅保育士が若い保育士の育成に努めながら保育の質を高めていかなければなりません。そのためには、職員への意識づけを徹底し、常に丁寧さを心掛け、保育が雑にならないよう見通しを持った保育を展開していかなければならないと考えています。

また、病後児保育の開始にあたっては、仙台市として保育所併設は初めての委託事業となり、手探りではありますが、ケアを十分に行える環境を作っていきながら、体制を整理しながら将来的には病児保育も視野に入れていければと思っています。

経営面においては、最初から定員が埋まらないであろうと予測した上で、収入に見合った経営を心掛けるのはもちろん、大所帯になるからこそ、ひとり一人に収入と支出のバランスを理解してもらえよう努めていきたいと思っています。

いずれにしても職員が一丸となり、この移転新築が成功だったねと思えるよう、気持ちよくスタートを切りたいと考えています。

どうぞ、今年もよろしく願いいたします。

柏木保育園

園長 島田 玉江

新年あけましておめでとうございます。

最近では、地球規模での温暖化の影響が大きく響いて、至るところで干ばつや大雨の影響が聞かれています。日本でも小寒なのに暖かい陽気が続き全国的に雪不足や季節はずれの梅や桜の花が咲いたとの声も聞かれ、この先どう影響してくるのか心配なことが多いですね。

そして東日本大震災から丸5年目を迎える今年ですが、災害は忘れたころに来ると申します。そうならないように、日頃から備えあれば憂いなしの言葉のように日々の危機管理意識を高めながら、怠ることの無いように肝に銘じてまいりたいと思います。

さて昨年の4月より保育制度も大きく変化し、保育園に求められる事も多くなってきておりますが、子どもたちの置かれる環境は益々厳しくなっているのではないかと危惧しております。

柏木保育園の子どもたちは、在籍数が毎月132名程を上下しておりますが、夕方6時以降の延長保育時間の利用数は、前年度は30人前後でしたが、27年度は40名を超える日も多くなっております。これは保護者の方々の置かれている状況も厳しい現実があるのではないかと考えられます。

子どもの数が少子化なのに、もう少し子育てにやさしく、保護者が少しでも長い時間、子どもたちとお金の事も気にせず安心して生活できる環境や、子どもたちが将来を悲観することなく、一人ひとりが大事にされる世の中になって欲しいと願っております。

柏木保育園は園児数の多い園ではありますが、年末から年明けも全然風邪なども蔓延することなく子どもたちみんなが、元気に過ごしているのは保護者の方々の協力もさることながら、職員一人一人の日頃からの意識の高さが功を奏しているのだと自負しております。

それに奢ることなく今年も日々精進してまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

富沢わかば保育園

園長 庄子 美智子

年末の29日から1月3日までの6日間のお休み、皆様いかがお過ごしでしたでしょうか？今年の冬は暖冬ということで比較的暖かな年末、穏やかなお正月だったように思います。ご家族みなさんで、にぎやかに新しい年を迎えられた事と思います。保育園のあちこちから久々にお友達と顔を合わせて、楽しかったお正月の事をにぎやかに話す声が聞こえ、その時の笑い声や笑顔がこちらにも伝わってくるようです。

昨年は保育制度が新しくなり、保護者の方にも保育時間の標準時間や短時間の事など、何かと戸惑う事があったかと思えます。いろいろとご理解とご協力ありがとうございます。

世情と考えますと、世界のあちらこちらで起こるテロ事件、逃げ惑う子ども達の姿を見るにつけ、戦争のない平和な世の中を切に願わずにはられません。私たちもよその国の事として見過ごすことは出来ません。また、格差と貧困、混沌とした時代を実感します。

児童福祉施設である保育園は子ども達の幸せを常に願い、実現する使命があります。子ども達は大人との愛着を基本に人と関わり合いながら自分を存分に発揮して子ども時代を生き生きと過ごす権利のある存在です。これからの未来を担う子ども達ですから、私達は保護者の皆様と一緒に協力して子ども達の育ちを見守って行きたいと思えます。富沢の地域に保育園を開園し今年で25年目となります。地域に開かれた保育園として役割を果たせるよう子どもと保護者と共に今年もより良い保育園づくりを目指して行きます。

新しい年を迎え、新たな気持ちで気持ちを引き締め保育に当たりたいと思えます。今年もどうぞよろしく願いいたします。

仙台市中山保育所

所長 櫻間 美智子

皆様、お健やかに新年を迎えられた事と思えます。保育所も久しぶりに子ども達の声が響き渡り、本来の活気を取り戻したようです。昨年は受託3年目にして所長が変わるという動きがありましたが、職員は無論の事、保護者の皆様にも、ご理解や、ご協力をいただき、お陰様で無事1年を締めくくることが出来ました。本当に有り難いことです。幼い子ども達の命を預かる施設として子ども達みんなが無事に元気に育つというのは何ものにも勝るうれしいことで、子ども達からさまざまなエネルギーをもらう私達にとっては保育士冥利に尽きると言えます。

昨年の1年の世相を表す1文字に“安”という文字が選ばれ、その理由が安保関連法案に絡んだり、又様々な社会現象や自然災害に対する恐れから不安を表す“安”とも聞いています。今、本当に世界は混沌とし、一歩間違うと戦争になってしまうのでは？と思わせられるような状況が次々と起こり、それらに伴い差別や排斥といった悲しい現実も見られています。国内では、少子高齢化や子どもの貧困等などこれから社会全体で解決していかなければならない沢山の困難が山積で、中々明るい話題の見えない昨年でしたが、今年は少しでも前向きに希望の持てる年になりますように、各自がまずは自分の足元から、私たちのそばには常に子ども達がいることを何よりの励みとし、子ども達がより楽しく安心して生活が出来、保護者の方がホッと出来、子ども達の未来を楽しみに子育てができるよう職員一同努めて行きたいと思えます。どうか“安”の文字が安心の安となるような1年になりますよう祈りを込めて、本年もどうぞよろしく願い致します。

仙台つばさ荘

施設長 佐藤 文彦

昨年度、児童相談所における児童虐待相談件数は8万8千件、配偶者暴力相談センターに寄せられたDV相談件数は10万2千件と年々増加し、子育て家庭を取り巻く状況は厳しさを増しています。加えて母子世帯数も増加している中、母子生活支援施設の数も減少の一途をたどり、約半数の施設が暫定定員に陥っている矛盾した現状があります。

平成24年度に母子支援員が1名、更に今年度は少年指導員が1名予算措置され、一世帯あ

たりの保護単価は毎年上昇しております。施設にとって運営基準や運営費の改善は喜ばしいことですが、入所委託する自治体によっては措置を控える傾向も見られます。このような状況の中、児童の福祉のため、母子世帯の生活の自立のため、より多くのニーズに対し施設機能を発揮するために、仙台市に限らず広域からの入所を積極的に受け入れたいと考えております。

また、2年間という入所期間の縛りも厳しくなっており、自立に向けた利用者支援（インケア）のみならず、退所に向けての支援（リービングケア）退所後支援（アフターケア）に力を入れ、利用者がスムーズに地域での生活に移行し、退所後も安心して生活できるよう努めたいと思います。

利用者の抱える多様化・重層化した課題に対応でき得る支援の専門性を高めることも、施設に期待されており取り組むべき課題であります。来年は、義務化されてから2回目の第三者評価を受審します。毎年の自己評価に対する改善策を実践し、前回は上回る評価結果を得られるよう施設として全体のレベルアップを図りたいと思います。また、職員一人ひとりについても、研修体制を整えるとともに目標管理に取り組みスキルアップできるようサポートしたいと思います。

母と子の笑顔のために、利用者とのパートナーシップと職員間のチームワークを重視した施設運営に努めてまいりますので、今年もどうぞよろしくお願い致します。

仙台むつみ荘

施設長 長田 伸一

皆様、明けましておめでとうございます。

温厚で温かな羊年が終了し、騒がしくなりそうな申年が始まりました。新年の抱負を述べる前に我がむつみ荘は昨年2人の職員と数組の利用者世帯の入れ替わりがありました。日々目まぐるしく変わる中、大きな怪我や事故も無く健康で無事に一年を終了する事ができました。これも、むつみ荘職員全員の努力と法人役職員のご協力あつての結果であると感謝に堪えません。本当にありがとうございました。

さて、新年を迎えるに当たり、私の考えるむつみ荘の目標としての新年の抱負を申し上げます。まだまだ施設での経験、年齢ともに未熟で若い職員も多数おります。ベテラン職員も含め初心に帰り、当面の間は基本をしっかりと確認しながら実行し、職員の育成、施設の運営や処遇サービスの基本確認をする事を念頭に次の6点を目標に掲げたいと思います。

- 1 母子生活支援施設の業務全般をもっともっと理解する事。
- 2 職種、職員間のコミュニケーションをより円滑な物にする事。
- 3 各担当職員の壁（守備範囲）、を超えて、互いにカバーする事が可能な実力を養いつつチームとしての支援を確立して行く事。
- 4 入所者の施設内でしか通用しない様な生活態度や行為等を分析、軌道修正し、自立に繋げる事。
- 5 支援を計画し実施するに当たり、中長期的な視野に立ち、点から線そして面に広がる様な支援を心掛ける事。
- 6 確固たる目標を持って日常業務に臨む事。

この6つを柱とし、職員達への基本方針として挙げ、更には福祉法人で運営する母子生活支援施設のメリットと特色を、最大限発揮できる環境に結び付けていく事を、私の最終的な目標とします。

最後に我が法人は現在、20数事業所、職員数350人強を数える大型船に成りつつあります。社会環境の変化や制度変化に併せ軌道修正を図ろうと、舵をいっぱい切っても軌道が変わるのに2～3年更にその後、軌道に乗るのに最低4～5年が必要である状況です。職員全員が事業所毎に独立採算性が基本である事をもっと強く意識し、一致協力し、意見を出し合い上

層部がその下からの意見を真摯に聞き、経営責任と説明責任を持って問題を早急に打開していく姿勢が、法人にとっての直近の重要課題かと感じます。80年強歴史のある仙台社会事業協会を、誇りある法人のまま後進に受け継いで行きたいと思いをします。

以上を法人並びに仙台むつみ荘の新年の抱負として述べさせて戴きます。

仙台理容美容専門学校

校長 小野寺 光弘

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、「第7回全国理容美容学校学生技術大会」の東北地区大会が7月に岩手県で開催され、本校学生28名が出場し、みごと17名の学生が東北地区代表として全国大会の出場権を勝ち取りました。そして、11月に徳島県（四国）で開催された全国大会は地区大会を勝ち抜いた総勢519名（11地区230校参加）の学生が各競技「日本一」を目指し技術を競い合いました。その結果、お陰様で理容部門「ミディアムカット競技」1名、「ワインディング競技」1名、美容部門「ワインディング競技」1名の合計3名が優秀賞を受賞し、一昨年より良い結果を残すことが出来ました。また、東北地区の学校の中で第1回大会から続いている全国大会出場者最多人数の記録も7年連続と伸ばすことが出来ました。今年はさらに昨年以上の良い結果が出せるよう頑張っていきたいと思いをします。

さて、昨年の「年頭の挨拶」でライバル校との差別化を明確にするために『すべての要素に「本物」を追求していきたい』と申しましたが、その思いは職員全員の共通の思いであり、今年もそれを重点に置いていきたいと思いをします。その中で、1月末に完成予定のサロンワーク実習施設が、まさに「本物」への追求に大きく関わってくる施設であり、その活用の仕方次第で今後の本校の評価も変わってきます。学生がより実践的なサロンワークを体験することで、即戦力になる人材を数多く育てていくことに理容師・美容師養成施設としての一つの使命を感じながら、良い評価を得られるよう有効に活用していきたいと考えています。そして、常に「質の高い教育」を目指し、今年一年も教職員一丸となって頑張っていきたいと思いをします。

本年もどうぞよろしくお願い致します。